



JASDAQ  
証券コード: 6730



# AXELL CORPORATION

## 第9期 事業報告書

平成15年4月1日～平成16年3月31日

## 株主の皆さまへ

MESSAGE

ユビキタス・ネットワークのインタフェースを鮮やかに  
描画する画像処理LSI<sup>\*</sup>の研究開発が進んでいます。

※LSIは、Large Scale Integrated Circuitの略、大規模集積回路



取締役社長 佐々木 譲

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。ここに第9期事業報告書(平成15年4月1日～平成16年3月31日)をお届けいたします。

当社の第9期は、アミューズメント市場での更なるシェアの拡大に加えてAG-1からAG-2への移行の期となりました。

アミューズメント市場に対しましては、前期までの主力製品であったAG-1の販売を継続するとともに、AG-1に対して基本性能で4倍(圧縮性能では約50倍)の能力を有するAG-2へのシフトを推し進めました。上記の様なAG-2の進化した機能をご評価いただき採用が大幅に増加したことに加えて、AG-1の販売も当初予想を上回る形で推移いたしました。この結果、売上高で約20億円増加の53億円、経常利益は約11億円増加の23億円(経常利益率44%)という数値を計上することができ

ました。

平成15年3月に販売を開始いたしました新市場創造をめざしたグラフィックスLSI「AG-9シリーズ」につきましては、対外的には、マーケティング活動に注力すると共に、社内的には、そのリソースの多くをAG-9シリーズに係る周辺ソフトやシステムの整備に割いてまいりました。

具体的には、AG-9シリーズのリアルタイム処理用のOSとしてNORTi(株式会社ミスポ)をご用意するとともにインターネットブラウザもNetFront(株式会社ACCESS)等を使用可能といたしました。また、顧客の利便性を向上させるユーザ・インタフェース(株式会社アイ・エル・シー)等、他社とのアライアンスを積極的に推し進めてまいりました。また、AG-9シリーズをベースにした新しいシステム事業への展開を図る目的で株式会社アパールデータとシステム・ソリューション・ビジ

ネスの協同構築で合意いたしました。

このようにAG-9シリーズの周辺環境(ソフトウェア・開発環境等)の充実を図る活動は、アミューズメント市場に続くマーケットに育てるために必要不可欠な活動であると考えており、今後も必要に応じて積極的なアライアンスを構築してまいりたいと考えております。

従来、IT(Information Technology:情報技術)・FA(Factory Automation:工場などにおける自動化システム)・計測・医療機器等の描画表示システムは、その多くがPC(Personal Computerの略:パソコン)をベースに構成されてきました。このためシステム自体の信頼性や熱効率、コスト等の問題からグラフィックスの導入を見送ってきた複数の市場にまたがる製品群を集約することによって新しいマーケットを構築してまいりたいと考えております。

ハイクオリティな画像をノンPCで実現できるAG-9シリーズを多くの市場、そして顧客の皆さまに認知していただく活動に注力し、第12期以降の本格的な量産開始への礎を築いてまいりたいと思います。

AG-9シリーズの第二弾となる独自の圧縮伸長技術「Dual-RAPIC」を搭載した監視・セキュリティ・画像記録機器向けグラフィックスLSI「AX51902」や音源データの圧縮伸長技術に特徴のあるサウンドLSIの開発も順調に進んでおり、第10期中の完成をめざしております。

当社では、第10期もグラフィックスLSI、サウンドLSIそして新しい圧縮伸長技術やユニークな研究開発を積極的に行ってまいります。

株主の皆さまには、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## ■ IRへの取り組み

### 個人投資家説明会開催

当社では、平成16年5月8日に個人投資家向け会社説明会を初めて開催いたしました。一人でも多くの皆さまのご参加を期待して土曜日の開催とさせていただきますでしたが、結果は100名を超える投資家の皆さまにご出席いただくことができました。今後も投資家の皆さまに有意義であったとご評価いただける工夫を凝らしたユニークな説明会を継続的に開催してまいりたいと考えております。

### IR情報満載のメールマガジン配信を開始

この度、JASDAQ上場から1周年を機に、年6回のペースでメールマガジンを配信させていただきますこととなりました。このメールマガジンを通して、投資家の皆さまにIR情報をはじめ、事業計画や将来の展望などについて、よりタイムリーな情報をご提供いたしますとともに、当社についてより深くご理解いただけることを期待しております。メールマガジンのお申込みは、以下のアドレスの当社ホームページよりお願いいたします。<http://www.axell.co.jp/>



## トピックス & ニュース

### TOPICS & NEWS

#### TOPICS

##### AG-9シリーズ(AX51901・AX51902)によるサードパーティーとのアライアンス

- 平成15年 6月 株式会社ACCESSと組込み機器における高度画像処理分野で協業合意いたしました。
- 平成15年 6月 株式会社ミスポのRTOS (Real-Time OSの略:リアルタイム処理用のOS)「NORTi」をAX51901に採用いたしました。
- 平成15年 8月 株式会社アイ・エル・シーとAX51901用GUI (Graphical User Interfaceの略:操作の対象が絵で表現されるユーザ・インタフェース)構築環境開発で合意いたしました。
- 平成15年11月 株式会社アパールデータと共同でシステム事業を展開することで合意いたしました。

#### イベント報告

##### AG-9シリーズ(AX51901・AX51902)を使用したアプリケーションイメージの提案

- 平成15年 7月 ESEC (ビッグサイトにて開催)に出展した株式会社ACCESS、株式会社ミスポの各ブースにAX51901を搭載したデモ機を展示いたしました。
- 平成15年11月 ET2003 (パシフィコ横浜にて開催)に出展いたしました。この展示会では、AX51901や新しい圧縮伸長技術「Dual-RAPIC」等を使用したアプリケーションイメージを前面に出したデモ機やPCによるシミュレーションを展示いたしました。また、協力会社(株式会社ACCESS、株式会社ミスポ、株式会社アイ・エル・シー、株式会社アパールデータ)の展示スペースも設けAX51901・AX51902の多角的な可能性を提案いたしました。
- 両展示会とも多数のご来場をいただきましてありがとうございました。第10期も展示会への出展等の積極的なIR及びPR活動を推進してまいります。

#### IR TOPICS

- 平成15年 5月 普通株式1株を2株に分割いたしました。この分割の目的は、投資価額の引下げと当社株式の流動性向上を図ったものであります。
- 平成16年 2月 当社株式のJASDAQ市場における取引方法をマーケットメイク方式からオークション方式に変更いたしました。

## ET2003への出展

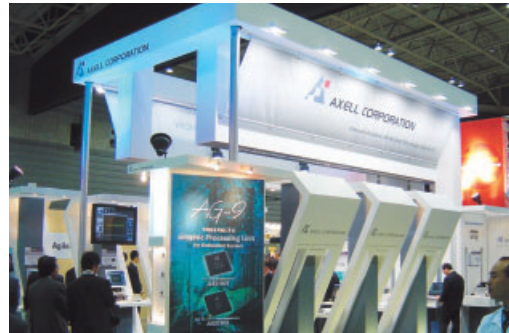
当社は、平成15年11月12日～14日にパシフィコ横浜で開催されたET2003に出展いたしました。

この展示会は、アプリケーション・イメージを強く意識した展示会であり、IT・FA・計測・医療機器、監視・セキュリティ・画像記録機器向けグラフィックスLSI「AG-9シリーズ（AX51901・AX51902）」を使用した組み込み機器のイメージをデモ機の形で展示いたしました。

具体的には既に販売を開始しているAX51901の各種機能を一覧できるデモに加えて、カーディナー用デモや複数の静止画像間の中間画像を自動生成するソフトウェアをAX51901の開発評価ボードによって描画表示したものを展示いたしました。

更に、第10期に完成予定のAX51902に搭載される新しいリアルタイムの画像圧縮伸長技術「Dual-RAPIC」のデモや、協力会社（株式会社ACCESS、株式会社ミスポ、株式会社アイ・エル・シー、株式会社アパールデータ）とのアライアンスの成果を展示するなどAG-9シリーズの多岐にわたるアプリケーションの可能性を展示いたしました。

この展示会には、技術系のお客さまに加えて、アナリストの方をはじめとした複数の証券関係の方にもご来場いただきました。今後につきましても、PRとIRの両方の側面からこのような展示会を活用してまいりたいと思います。



当社ブース



協力会社ブース

## 第10期 IRカレンダー

平成16年 4月27日	第9期決算短信リリース
平成16年 4月28日	第9期アナリスト向け決算説明会開催
平成16年 5月 8日	個人投資家向け会社説明会
平成16年 6月17日	第9期定時株主総会開催（決算公告は、ホームページへの掲載により実施いたしました。）
平成16年 7月30日	第10期第1四半期決算発表予定
平成16年10月 下旬	第10期中間決算発表予定
平成17年 2月 初旬	第10期第3四半期決算発表予定

※上記以外に、アナリスト向け技術説明会や個人投資家向け会社説明会等を企画しております。スケジュールが確定次第、ホームページのIRスケジュールに掲載いたします。

また、以下に記載のメールマガジンによる情報配信サービスでもスケジュール確定の連絡を実施いたします。

※平成16年6月より当社のIR情報をメールにて配信いたします。詳しくは本誌2ページをご覧ください。

# アクセルのテクニカル・イノベーション

TECHNICAL INNOVATION

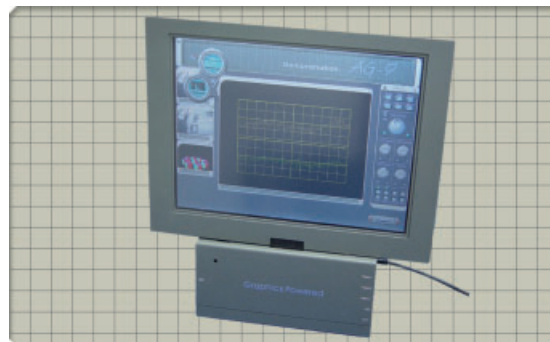
グラフィックス、サウンドそして圧縮伸長技術。全てがアクセルの研究開発のフィールドです。汎用グラフィックスLSIメーカーとしてアミューズメント市場でNo.1のシェアを獲得しているアクセル。アクセルは画像と音の一体化をめざして開発に取り組んでいます。

## 独自の差別化技術

### 1. LSI設計技術

当社のグラフィックスLSIは、LSI自身によるグラフィックス描画を特徴としています。CPUに依存しない描画表示システムは、基板サイズの小型化や熱効率、トータルコストの低廉化等、多くの製品への描画表示システムの搭載可能性を飛躍的に高めるものであります。

右の写真はAG-9シリーズのAX51901によるデモ機です。画面上では、複数の処理を同時に行いながらグラフィックスLSIによる高速波形描画を行っています。また、画面右のリアルなボタン等の描画にも注目してください。



### 2. グラフィックス技術

当社のグラフィックスLSIは、多彩な特徴的機能を持っています。例えば、複数の動画を同時に伸長しながら、バックグラウンドを自由自在に描き、その上に別の動画のキャラクターのみを切り出し、そのキャラクターへ拡大縮小、回転、半透明等のエフェクトをかけるといった演出も軽々とこなしていきます。

右の写真は、AX51201によるデモ機です。ここでは1番奥の林の動画の上に恐竜とエアバイクという別々の動画のキャラクターを切り抜いて新しいストーリーの動画を描画しています。



### 3. 画像圧縮伸長技術

当社は、グラフィックス及びサウンドLSIに関する技術開発を行っています。当社の研究開発の三本目の柱が圧縮伸長技術の開発です。「Alice」、「RAPIC」、「Dual-RAPIC」と特定用途に特化した独自の画像圧縮伸長技術を開発しています。この画像圧縮伸長技術をグラフィックスLSIに取込んだことが当社製品の大きな差別化となっています。以下に、監視・セキュリティ・画像記録機器向けに当社が開発した、新しい画像圧縮伸長技術「Dual-RAPIC」の特徴をご紹介します。

#### [ Dual-RAPICの特徴 ]

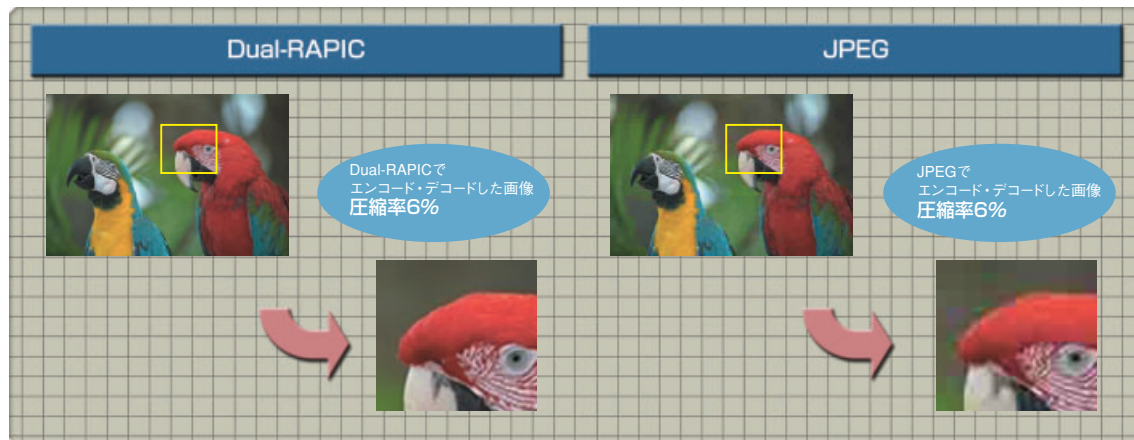
- 当社がLSIに取込む目的から独自に開発した静止画像圧縮伸長技術。
- リアルタイム画像用組込み機器をターゲットにした画像圧縮伸長技術。
- コンパクトで高速圧縮伸長を実現。
- 乗除算を使用せず、加減算・ビットシフトで実現。
- ブロックノイズを緩和し、モスキートノイズ、疑似輪郭が発生しにくい特性を持つ。

#### Dual-RAPICとJPEGの画像比較

「Dual-RAPIC」は、基本的なアルゴリズムのレベルから当社が独自に開発した技術であり、圧縮伸長とも高速で軽い処理をLSI上で実現可能とした点に特徴があります。

現在当社が開発中であり、「Dual-RAPIC」の搭載を

予定して第10期中の完成をめざしている組込み機器向けグラフィックスLSI「AX51902」では、XGA(1024 pixel×768 pixel)の画像を1秒間に50枚エンコードあるいはデコードする能力を持ち、VGA(640 pixel×480 pixel)では130枚の処理能力をめざしています。



## アクセセル Q&A

### QUESTION AND ANSWER

このページでは、これまで株主・投資家の皆さまからIRに寄せられましたご質問から4つの項目につきまして、回答させていただきます。

**Q 優秀な人材を獲得するための取り組みを教えてください。**

**A** 前回の中間事業報告書では、当社の「人」へのこだわりをご説明させていただきました。技術的に優秀であること(素質を含む)に加えて、「人柄」という部分も非常に重要なスキルと考えて採用活動を進めています。

実際、このような資質を持つ人材を継続的に採用するという事は非常に難しいことではありますが、当社では大阪大学・京都大学・筑波大学の各大学と共同研究を実施しており、この共同研究の中で、各大学から、当社のトップエンジニアに育つ素質・能力及び人柄を兼ね備えた非常に優秀な学生をインターンシップ制度の中で受け入れる仕組みができています。

インターンの期間に、学生には当社の業務内容や社風、当社は学生の技術的資質や人柄を十分に吟味して、ミスマッチのない形で優秀な人材の採用が継続的に行える仕組みができあがっており、人材紹介会社と積極的に進めている即戦力採用とともに、当社の人材確保に大きく寄与しています。

**Q 現金及び預金の増加に関する認識を教えてください。**

**A** 当期末時点における貸借対照表の現金及び預金残高は40億円を超えており、総資産の75%を超えています。この残高に対し、当社内で使用が想定される資金としては次のようなものであります。

第一に、新しいLSIを製造する場合の試作開発費として数千万円から数億円の費用を必要とし、タイミング的に、複数のLSIが同時に完成する場合も想定されます。第二に、自社で開発した基幹技術を活かす、優秀な他社技術の導入(M&Aではありません。)も積極的に行う可能性があります。

このように総合的に発生するであろう各種費用に対して、無借金経営を継続しながら自己資金で迅速に対応すると考えた場合、流動資産、特に現金及び預金の比率を高めていく必要があると考えています。



**Q 株主還元についての考え方を教えてください。**

**A** 一般的に株主還元といわれるものには、配当、株主優待等があると思います。まず第一に、配当につきましては、継続的かつ積極的に実施する方針です。しかし同時に、現在成長過程にある企業として社内留保分も勘案のうえ、財務内容を健全に保ちつつ安定的な配当を実施することが理想であると考えております。

配当実績で3年目の会社ということもあり、今後の配当金額の決定に当たりましては、過年度の配当性向との比較というより、当面、前年実績金額を基準にして配当金額を検討してまいります。

次に、株主優待につきましては、現在までに具体的な検討をしておりません。当社はファブレス半導体メーカーであり、業務に直結する内容の優待が考えにくいことが理由であり、総じて配当金の総額としての妥当性の問題であると認識しています。

**Q 株式分割についての考え方を教えてください。**

**A** 当社は、平成14年12月に株式を公開しており、株式公開後現在までに、普通株式1株を2株に分割する分割を2度実施(平成15年5月20日及び平成16年5月20日)しています。

当社株式の分割を決定する要素といたしましては、株式投資単位の適正化と流動性の向上をあげることができま

す。株式投資単位の適正化といたしましては、投資単位が適正価額帯を継続して超えている状態で、投資家の皆さまが投資しやすい価額(指針としては50万円)への引下げを目的として分割を検討することとなります。

他方、分割を実施することにより発行済株式総数が増加することとなりますが、この増加によるランニングコストの適正性や適正株主数などを慎重に検討しながら分割を決定しております。

## 営業の概況

### BUSINESS REVIEW

#### ■ 営業の経過及び成果

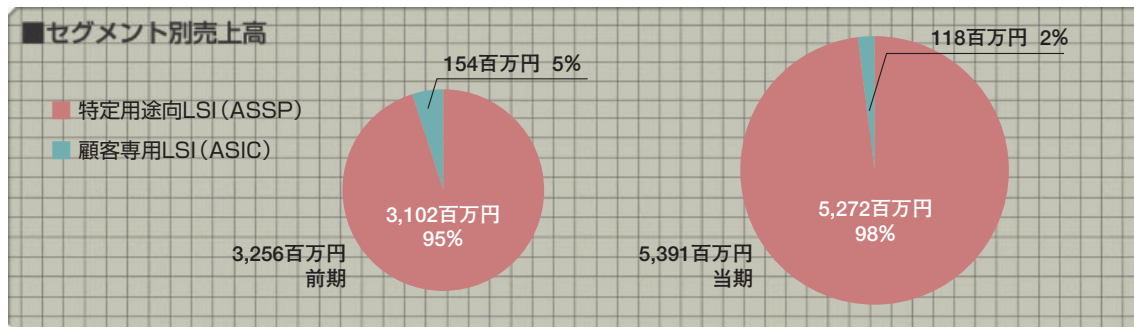
当期におけるわが国経済は、前半においてイラク情勢や重症急性呼吸器症候群(SARS)等の影響による世界的経済不安定要因を受けて、デフレ基調を払拭しきれない厳しい状況下での推移となりました。しかし、後半になり米国及びアジア地域を発信源とする海外景気の上昇傾向に牽引される形で国内景気の回復にも明るい兆しが見えてまいりました。一方、当社が属するエレクトロニクス業界におきましても、デジタル家電、多機能携帯電話やPCの需要の増加を受け積極的な設備投資等の動きが見られ、景気回復に向けた動きが本格化してまいりました。

かかる環境の中で当社は、アミューズメント業界におけるグラフィックス及びサウンドLSI分野にターゲットを絞り、グラフィックス描画技術や圧縮伸長技術等の独自技術を搭載したLSIの開発を進めるとともに顧客の開発負担の軽減化を目的とした開発環境の開発にも注力し、他社との明確な差別化を実現した自社開発製品である

特定用途向LSI( ASSP : Application Specific Standard Product [特定のアプリケーション、使用目的のために設計、製造されるLSIで複数の顧客に対して販売を行うものをいう。])を中心に顧客専用LSI( ASIC : Application Specific Integrated Circuit [特定顧客の特定アプリケーション、使用目的のために設計、製造されるLSIで開発を依頼された特定顧客に対してのみ販売を行うものをいう。カスタムLSI、カスタムチップなどとも呼ばれる。])も加えたLSIの設計・販売を中心としたトータルソリューションの提供に注力いたしました。

以上の結果、当期の売上高は5,391百万円(前年同期比65.5%増)、経常利益は2,375百万円(同95.2%増)、当期純利益は1,425百万円(同115.0%増)となり、いずれも前期までの数値を上回る数値を計上いたしました。

製品区分別の業績を示すと、次のとおりであります。



## ■ 特定用途向LSI (ASSP)

高精細、高解像度のグラフィックス描画機能と独自の動画画像圧縮伸長機能「RAPIC」を搭載したアミューズメント機器向けグラフィックスLSI「AX51201」の販売数量が大きく増加したこと及び前期までの主力製品であったグラフィックスLSI「AX51102」の販売も当初予想を上回り順調に推移したことが当期の増収増益に大きく寄与いたしました。

この結果、当期における特定用途向LSI (ASSP)の売上高は5,272百万円(前年同期比70.0%増)となりました。

## ■ 顧客専用LSI (ASIC)

当社はASSP製品の開発販売を中心にした半導体メーカーであり、社内の設計リソースは原則としてASSP製品の開発に集中しております。顧客専用LSI (ASIC)につきましては技術的先進性等の特に開発を受託する要因がある場合に開発リソースを振り分けることとしております。このため当期における顧客専用LSI (ASIC)の新規の設計開発に係る受託はなく、前期までに受託開発した製品の量産販売の売上高を計上いたしました。

この結果、当期における顧客専用LSI (ASIC)の売上高は118百万円(前年同期比23.4%減)となりました。

### 【製品紹介】

#### AX51201

AX51102の上位機種であるAX51201は、SVG Aクラスの表示ユニットへの高速描画表示を実現しました。このAX51201は、高い描画性能と動画画像に対応した新しい圧縮伸長技術「RAPIC」テクノロジーを搭載したグラフィックスLSIです。

#### AX51901

AX51901は、IT・FA・計測・医療機器等の表示システムに最適なグラフィックスディスプレイコントローラであり、最大SXGAの高解像度に対応しています。豊富な描画機能や周辺回路をLSIに内蔵したことにより、CPU負担を大幅に軽減し、これまでのシステムに比べて安価でコンパクトに表示システムを実現できます。

#### AX51902

AX51902は、監視・セキュリティ・画像記録機器向けのグラフィックスLSIとして当社が独自に開発した新しい圧縮伸長技術「Dual-RAPIC」を搭載しています。ビデオキャプチャ機能、リアルタイムの画像圧縮伸長機能の搭載そして強力な描画エンジン等によりコンパクトで信頼性の高いシステム構築が可能となります。

### 【製品紹介】

#### FA機器用グラフィックスLSI

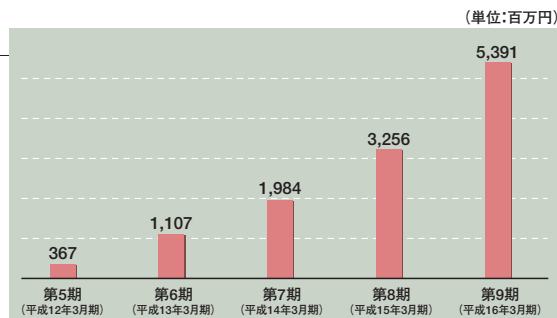
画像処理LSIであるAIP6401は、画像による位置合わせなどを行う機器や画像による製品検査を行う機器等に用いられます。画像平滑化、鮮鋭化、フィルタ、エッジ検出、ルックアップ・テーブルによる濃度変換、画像積算、差分抽出、ヒストグラムを高速に行うことができ、FA機器の画像処理専用アクセラレータとして好評を得ています。

# 財務ハイライト

## FINANCIAL HIGHLIGHT

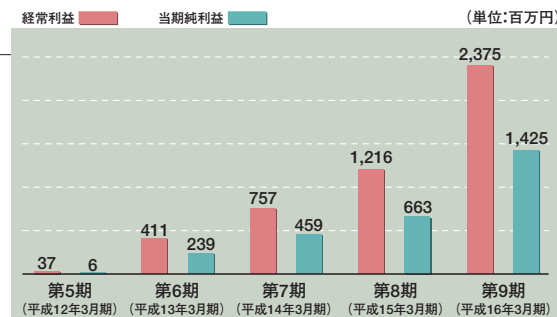
### ■ 売上高

当社の売上高は、第6期以降、アミューズメント市場に向けた特定用途向グラフィックスLSIを中心に構成されています。売上高の推移を分析すると、ASICの販売が中心であった第5期、AG-1の販売を開始した第6期、以降マーケット・シェアが拡大し、第8期の次世代製品AG-2の販売開始。そしてAG-1からAG-2への移行とシェアの拡大を受けて売上高が増加を続け、第9期では53億円(前期比約20億円増)の売上高を計上いたしました。



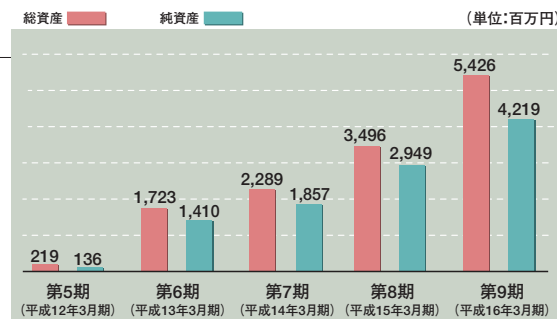
### ■ 経常利益/当期純利益

第5期から第9期まで5期連続での増収増益(過去最高益)を継続しています。コスト意識を強く持った経営スタイル(ファブレス方式による経営)から発生費用の増加を抑えるとともに、効率的な研究開発活動により生まれた高付加価値の製品を量産販売することにより高い利益の計上を実現しています。特に第6期以降、特定用途向LSI (ASSP)の販売が売上高の中心となり、量産効果から利益の絶対額が大きく増加しています。



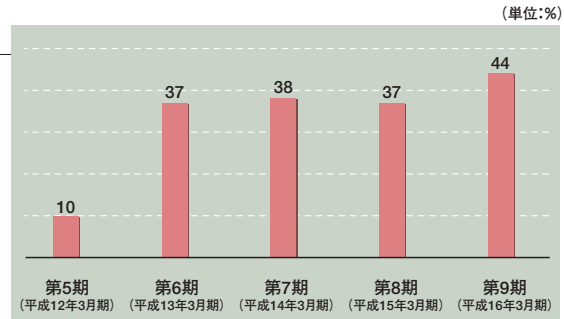
### ■ 総資産/純資産

総資産・純資産とも順調に拡大を続けています。特に第6期から第9期の各期において、高い水準の利益を積み上げたことに加えて、第8期に実施した株式公開による公募増資も拡大化要因となっています。第6期以降配当を実施しながら、同時に社内留保資金の充実を図っていることが純資産の増加要因となっています。全体的には、ファブレス半導体メーカーとして、有形固定資産の総資産比率を抑え、有利子負債のない無借金経営を続けています。

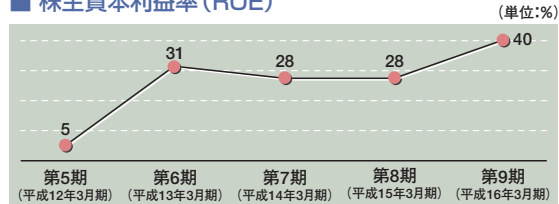


## ■ 売上高経常利益率

当社は、「売上高の拡大傾向を継続させること」と同時に、「経常利益率30%以上」という指標を重視しています。第6期以降第8期までは37~38%、第9期は44%の経常利益率となりました。今後、更なる事業拡大を目指すにあたって、LSIの製造販売を中心とした売上構成を継続する限り経常利益率30%以上という指標を経営の重要課題として認識してまいります。

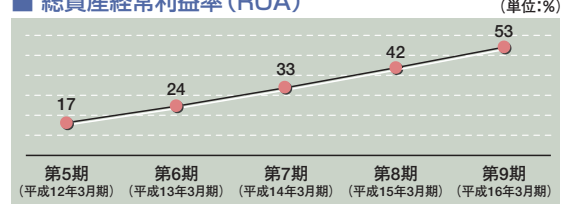


## ■ 株主資本利益率 (ROE)



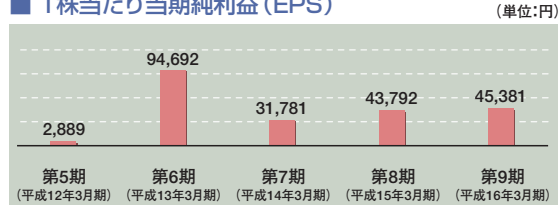
ROEは、株主の皆さまのお金をどのくらい活用して、当期にどれくらい利益を出したかという指標です。  
 $ROE(\%) = \text{当期純利益} \div \text{株主資本} \times 100$

## ■ 総資産経常利益率 (ROA)



ROAは、会社が調達したお金(自己資本+他人資本)を使って当期にどのくらい利益を上げたかを見る指標です。  
 $ROA(\%) = \text{経常利益} \div \text{総資産} \times 100$

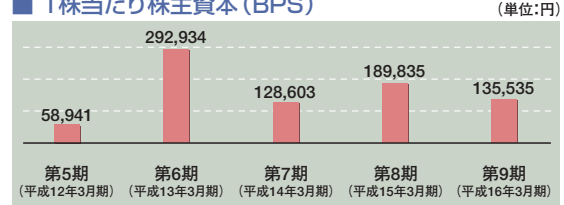
## ■ 1株当たり当期純利益 (EPS)



一般にEPSは、株価の割安・割高を判断する基準の一つである株価収益率 (PER) 等の指標の算出要素となります。

$EPS(\text{円}) = \text{当期純利益} \div \text{期中平均発行済株式数}$   $PER(\text{倍}) = \text{株価} \div EPS$

## ■ 1株当たり株主資本 (BPS)



一般にBPSとは、企業の安定性を見る指標の一つであり、金額が高くなるほど純資産が潤沢であり経営状態が安定していることを示します。

$BPS(\text{円}) = \text{期末株主資本} \div \text{期末発行済株式数}$

※EPS、BPS共発行済株式数により大きく数値が変動します。当社では、第7期(平成13年8月20日)に1:3、第9期(平成15年5月20日)に1:2の株式分割を行っております。

※ROE、ROAの算出に使用する株主資本及び総資産は各々、期首期末の数値の平均値を使用しております。

# 財務諸表

## FINANCIAL STATEMENTS

### 貸借対照表 (要旨)

(単位: 千円)

科目	期別 当 期 平成16年3月31日現在	前 期 平成15年3月31日現在
<b>(資産の部)</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	4,091,421	2,832,257
売掛金	631,248	261,275
製品	91,004	55,983
貯蔵品	283	1,465
前渡金	21,535	-
前払費用	28,980	22,058
繰延税金資産	75,501	34,523
その他	54,777	8,042
<b>流動資産合計</b>	<b>4,994,751</b>	<b>3,215,606</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	25,190	13,842
工具器具備品	95,663	71,509
<b>有形固定資産合計</b>	<b>120,853</b>	<b>85,352</b>
<b>無形固定資産</b>		
商標権・特許権	4,031	2,107
ソフトウェア	46,594	26,996
電話加入権	285	285
<b>無形固定資産合計</b>	<b>50,911</b>	<b>29,389</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	134,267	17,161
長期貸付金	-	500
長期前払費用	432	430
繰延税金資産	-	17,803
敷金保証金	63,259	67,847
保険積立金	62,247	61,923
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>260,207</b>	<b>165,666</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>431,973</b>	<b>280,408</b>
<b>資産合計</b>	<b>5,426,725</b>	<b>3,496,014</b>

(単位: 千円)

科目	期別 当 期 平成16年3月31日現在	前 期 平成15年3月31日現在
<b>(負債の部)</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	255,703	117,193
未払金	96,960	52,453
未払費用	10,930	4,140
未払法人税等	739,166	332,769
未払消費税等	79,526	31,265
預り金	18,229	9,085
<b>流動負債合計</b>	<b>1,200,516</b>	<b>546,906</b>
<b>固定負債</b>		
繰延税金負債	6,221	-
<b>固定負債合計</b>	<b>6,221</b>	<b>-</b>
<b>負債合計</b>	<b>1,206,738</b>	<b>546,906</b>
<b>(資本の部)</b>		
<b>資本金</b>	<b>953,833</b>	<b>947,500</b>
<b>資本剰余金</b>		
資本準備金	797,193	790,860
<b>資本剰余金合計</b>	<b>797,193</b>	<b>790,860</b>
<b>利益剰余金</b>		
利益準備金	1,185	1,185
任意積立金	500,000	200,000
別途積立金	500,000	200,000
当期末処分利益 (うち当期利益)	1,937,698 (1,425,765)	1,009,739 (663,153)
<b>利益剰余金合計</b>	<b>2,438,884</b>	<b>1,210,925</b>
<b>株式等評価差額金</b>		
その他有価証券評価差額金	30,076	△ 177
<b>資本合計</b>	<b>4,219,987</b>	<b>2,949,108</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>5,426,725</b>	<b>3,496,014</b>

**損益計算書（要旨）**

（単位：千円）

科目	期別	当期	前期
		平成15年4月1日～ 平成16年3月31日	平成14年4月1日～ 平成15年3月31日
売上高		5,391,084	3,256,952
売上原価		1,916,214	1,211,153
販売費及び一般管理費		1,093,371	811,863
営業利益		2,381,498	1,233,935
営業外収益		304	1,812
営業外費用		6,390	18,967
経常利益		2,375,412	1,216,779
特別損失		4,536	74,130
税引前当期純利益		2,370,875	1,142,649
法人税、住民税及び事業税		982,824	487,464
法人税等調整額		△37,715	△7,968
当期純利益		1,425,765	663,153
前期繰越利益		511,933	346,586
当期末処分利益		1,937,698	1,009,739

**キャッシュ・フロー計算書（要旨）**

（単位：千円）

科目	期別	当期	前期
		平成15年4月1日～ 平成16年3月31日	平成14年4月1日～ 平成15年3月31日
営業活動による キャッシュフロー		1,659,231	910,585
投資活動による キャッシュフロー		△226,661	△88,531
財務活動による キャッシュフロー		△173,405	423,477
現金及び現金同等物 の増加額		1,259,164	1,245,531
現金及び現金同等物 の期首残高		2,832,257	1,586,725
現金及び現金同等物 の期末残高		4,091,421	2,832,257

**利益処分**

（単位：千円）

科目	期別	当期	前期
		株主総会承認日 平成16年6月17日	株主総会承認日 平成15年6月19日
当期末処分利益		1,937,698	1,009,739
上記の金額を次のとおり処分します。			
配当金		309,660 (1株につき10,000円)	180,706 (1株につき11,700円)
役員賞与金 (うち監査役賞与金)		23,000 (2,000)	17,100 (600)
別途積立金		1,000,000	300,000
次期繰越利益		605,038	511,933

(注) 前期の1株当たりの配当金11,700円の内訳は、普通配当9,000円と上場記念配当2,700円であります。

# 第9期中間事業報告書 アンケートのご報告

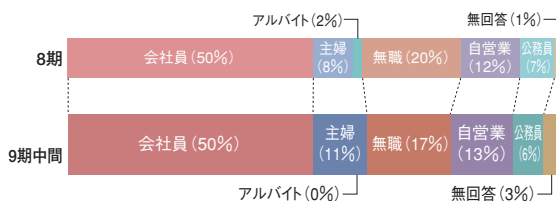
## SHAREHOLDERS REPORT

前回、第9期中間事業報告書をお届けいたしました際にご協力をお願いいたしました、アンケートの集計結果について、ご報告いたします。株主の皆さまにおかれましては、アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。

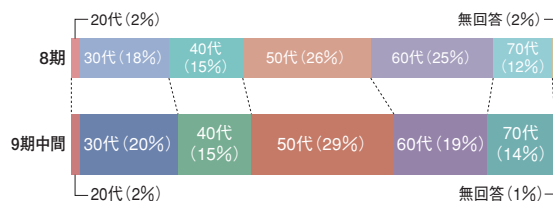
■調査期間 平成15年11月28日～平成16年2月29日

■調査対象について

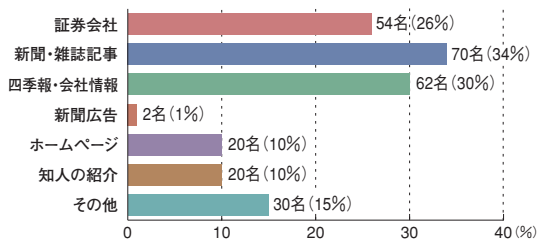
### ●職業



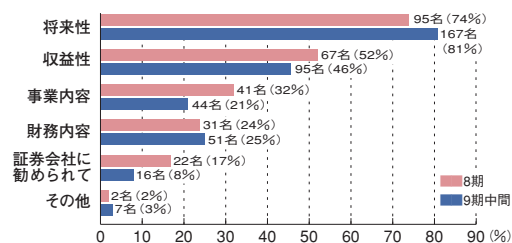
### ●年齢



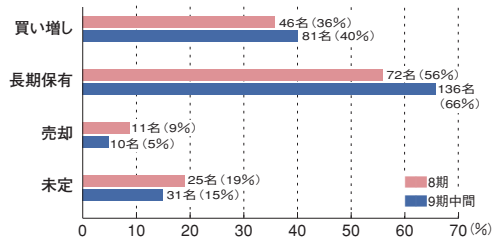
### Q1. 当社をどこでお知りになりましたか。



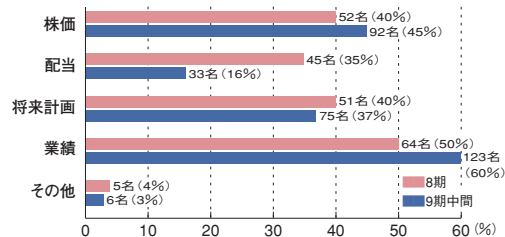
### Q2. 当社の株式をご購入された理由は何でしょうか。



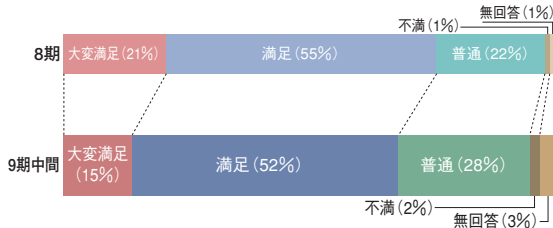
### Q3. 当社の株式についてどのような方針をお持ちでしょうか。



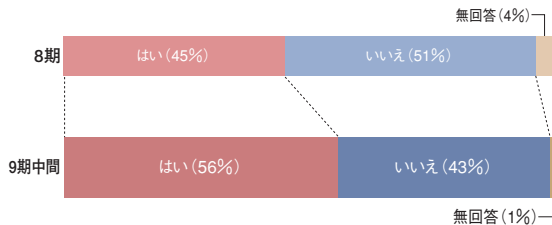
### Q4. Q3の方針決定の判断材料は何でしょうか。



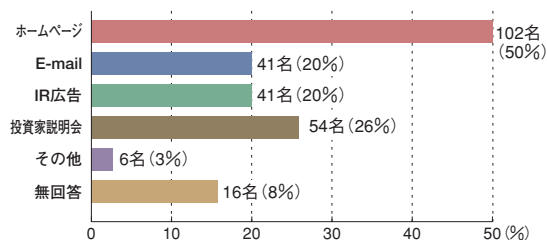
### Q5. 事業報告書についてどのようにお感じでしょうか。



### Q6. ホームページをご覧になったことはありますか。



### Q7. IR情報の伝達手段として今後希望されるものは。



平成15年9月末日現在株主数 …………… 1,751名  
 うちアンケート回答者数 …………… 202名  
 アンケート回収率 …………… 11.5%

### 第8期事業報告書及び第9期中間事業報告書のアンケートにより頂戴しましたご意見と当社の取組み

- ① 個人投資家説明会開催の希望  
 2004年5月8日（土）ホテルメトロポリタンエドモントにて個人投資家向け会社説明会を開始しました。
- ② 投資家向けIR情報のメール配信  
 2004年6月末から投資家向けIR情報メール配信サービスを開始します。登録は当社ホームページからとなります。
- ③ マーケットメイク方式について  
 2004年2月から当社株式の取引方法がマーケットメイク方式からオークション方式に変更されました。
- ④ ホームページの更新  
 12時間ルール廃止に伴い、プレスリリースの当社ホームページへの掲載タイミングを開示後速やかな掲載に変更しました。
- ⑤ 事業報告書上のグラフの色調が暗い  
 使用する色のトーンを明るくしました。

昨年、株主の皆さまからいただきましたご意見ご要望につきまして、上記のような取組みをいたしましたことをご報告させていただきます。

### 「アンケートのお願い」

当社では、株主の皆さまの声を数多くお聞きするため、アンケートを実施させていただいております。お手数ではございますが、同封のアンケートハガキにご記入いただき、ご投函ください。ご協力お願いいたします。

# 株式の状況 / 会社概要

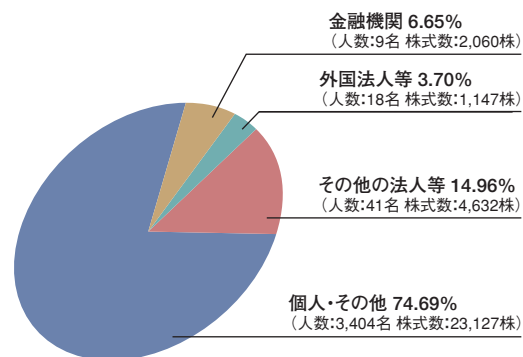
SHAREHOLDERS INFORMATION & CORPORATE DATA

## 株式の状況 (平成16年3月31日現在)

### 株式の状況

会社が発行する株式の総数	57,780株
発行済株式の総数	30,966株
株主数	3,472名

### 所有者別分布状況



### 大株主の状況

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
佐々木 譲	3,271	10.56
奥村 龍昭	2,388	7.71
緑屋電気株式会社	1,800	5.81
市原 澄彦	1,740	5.61
柴田 高幸	1,510	4.87
成田 喜則	1,478	4.77
森屋 和喜	1,056	3.41
株式会社アパールデータ	1,050	3.39
松浦 一教	960	3.10
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	889	2.87

### 株式の分割について

平成16年5月20日(木)をもって、次のとおり普通株式1株を2株に分割いたしました。

#### ●分割の方法

平成16年3月31日(水)最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載された株主の所有株式数を、1株につき2株の割合をもって分割いたしました。

#### ●分割により増加した株式数

(1) 分割前の発行済株式数	30,966株
(2) 分割により増加した株式数	30,966株
(3) 増加後の発行済株式数	61,932株

## 会社概要 (平成16年3月31日現在)

<p>設立年月日 平成8年2月1日</p> <p>資本金 9億5千3百万円</p> <p>売上高 53億9千1百万円</p> <p>社員数 24名</p> <p>事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・半導体集積回路及び半導体集積回路を組み込んだプリント基板の設計、製造、販売</li> <li>・ゲーム機器の設計、製造、販売</li> <li>・事務機器の設計、製造、販売</li> <li>・インターネットを利用した各種情報提供サービス業</li> <li>・画像又は音声に関する圧縮伸長処理技術の開発、販売</li> <li>・画像又は音声に関するコンテンツの開発、作成、編集、配信、保守にかかわる各種処理技術の開発、販売</li> <li>・前各号に付帯する一切の事業</li> </ul>	<p>主要取引先</p> <p>緑屋電気株式会社 インターニックス株式会社 岡谷エレクトロニクス株式会社 富士通株式会社 ローム株式会社</p> <p>取引銀行</p> <p>三井住友銀行飯田橋支店 UFJ銀行飯田橋支店 UFJ信託銀行新宿支店</p> <p>役員</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>代表取締役社長</td> <td>佐々木 譲</td> </tr> <tr> <td>取締役会長</td> <td>奥村 龍昭</td> </tr> <tr> <td>常務取締役</td> <td>市原 澄彦</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>柴田 高幸</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>千代 進弘</td> </tr> <tr> <td>常勤監査役</td> <td>吉田 良樹</td> </tr> <tr> <td>監査役</td> <td>阿部 勝</td> </tr> <tr> <td>監査役</td> <td>里吉 勝己</td> </tr> </table> <p>所在</p> <p>〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4丁目8番13号 タカラビル TEL：03-3511-1861 FAX：03-3511-1862</p>	代表取締役社長	佐々木 譲	取締役会長	奥村 龍昭	常務取締役	市原 澄彦	取締役	柴田 高幸	取締役	千代 進弘	常勤監査役	吉田 良樹	監査役	阿部 勝	監査役	里吉 勝己
代表取締役社長	佐々木 譲																
取締役会長	奥村 龍昭																
常務取締役	市原 澄彦																
取締役	柴田 高幸																
取締役	千代 進弘																
常勤監査役	吉田 良樹																
監査役	阿部 勝																
監査役	里吉 勝己																

## 株式事務のご案内

決算期	3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日 (そのほか必要があるときは、あらかじめ公告いたします。)
配当金 受領株主確定日	3月31日 (中間配当を実施する場合は9月30日)
公告の方法	日本経済新聞に掲載いたします。 ただし、貸借対照表及び損益計算書につきましては、従来の 決算公告にかえて当社ホームページに掲載いたします。
証券コード	6730 (JASDAQ)
名義書換代理人 事務取扱所	東京都江東区東砂7丁目10番11号 UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 03-5683-5111 (代表) TEL ☎ 0120-24-4479 (本店証券代行部) URL <a href="http://www.ufjtrustbank.co.jp/">http://www.ufjtrustbank.co.jp/</a>
同 取 次 所	UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

### ■IR情報ホームページのご案内

当社の財務決算情報、IRニュース、その他IR情報については、当社ホームページをご覧ください。

URL <http://www.axell.co.jp/>

### 株式に関するお手続き用紙のご請求について

株式に関するお手続き用紙(届出住所・印鑑・姓名等の変更届、配当金振込指定書、名義書換請求書等)書類のご請求につきましては、上記名義書換代理人にてお電話及びインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。

TEL ☎ 0120-24-4479 (本店証券代行部)

TEL ☎ 0120-68-4479 (大塚支店証券代行部)

URL <http://www.ufjtrustbank.co.jp/>

なお、株券保管振替制度をご利用の株主さまは、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

## 当社ホームページのご案内



当社は、財務諸表をはじめとする各種IR情報をホームページにて公開しております。

IR情報満載のメールマガジン配信開始!  
お申込み方法は本誌2ページをご覧ください。

<http://www.axell.co.jp/>



株式会社 **アクセル**

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4丁目8番13号タカラビル  
TEL 03-3511-1861 FAX 03-3511-1862



この報告書は再生紙を使用しており、かつ  
自然にやさしい大豆インキを使用しております。